

親鴨だより



2001年 9月号

第180号

朝夕はさすがにしのぎやすくなりました。皆さま如何お過ごしでしょうか。

野洲事業所は、日本IBMが急成長を続けている1971年8月にテクノロジー製品の製造拠点として操業を開始し、今年記念すべき操業30周年を迎えました。野洲事業所は滋賀県野洲町とのご縁があって、地元のご協力をいたたき立地された事業所です。

今回は野洲事業所がある滋賀県についてご紹介させていただきます。

滋賀県は日本列島のほぼ中央にあって、北陸山系が湖の東と西を南走し、伊吹、鈴鹿、比良、比叡の山脈に囲まれた盆地の中に、県面積の約1/6を占める琵琶湖があり、四囲の山々を源とする大小120余の河川が近江米で代表される穀倉地帯をうるおし、琵琶湖に注いでいます。琵琶湖は約400万年前にできた世界でも有数の古い歴史を持つ湖で、古くから県民生活と密接な繋がりをもち、湖国文化の発展に寄与するとともに、京阪神の1,400万人の貴重な水資源となっています。水の量は275億㎡、湖の水がすっかり入れ替わるのに19年以上かかるといわれています。周囲の長さは235kmで、大津市から浜松市までの長さとはほぼ同じです。滋賀県の人口は、'65年で85万人、'65～'75年にかけて産業活動(企業進出)が活発になるにつれ人口が急速に増え、'76年に100万人を超えました。その後も企業の進出が続き、龍谷大学(大津市)、立命館大学(草津市)など5大学の誘致、京阪神地区への通勤圏となるなど、現在約133万人となりました。滋賀県の人口増加率('95～'00までの5年間)は+4.2%で全国第1位、県内総生産における第2次産業の構成比は52.5%で全国第1位で、滋賀県は活力のある工業県へと大きく変貌しています。

観光を目的に滋賀県を訪れてくださった方も多くいらっしゃると思いますが、滋賀県には歴史・文化があり、京都、奈良に次いで神社仏閣がたくさんあります。京都のような華やかさはありませんが、歴史の重みを感じる寺院、城下町など多くあります。県内の代表的なもとして、石山寺、日本仏教のメッカ延暦寺、三井寺、浮御堂、蓬萊庭園で有名な大池寺、織田信長が天下を統一して築いた安土城址、安土城ゆかりの近江八幡市にある長命寺、紅葉の名所として知られている永源寺、湖東三山の西明寺・金剛輪寺・百済寺、多賀大社、彦根城、豊臣秀吉の城下町として発展した長浜市にある大通寺、湖北・高月町にある渡岸寺などなどがあります。琵琶湖を中心に恵まれた自然も多く、毎年滋賀県を訪れる観光客は年々増加の一途をたどり、現在では日本で有数の観光県として脚光を浴びております。会員の皆さま『自然と歴史とロマンのふるさと滋賀』にぜひお出掛けください。

最後に、21世紀は「環境の世紀」となると言われており、自然と人間がどう共生していくかという命題に対して、滋賀県は「環境こだわり県」として取り組んでいます。湖沼の環境問題解決のために、'84年に滋賀県で発足した世界湖沼会議は、その後、15年間は世界各地で8回開催されましたが、今年11月、滋賀県で第9回会議が開催されます。この会議は、20世紀において解決できなかった様々な問題について意見を交換する場となり、地球環境問題全般の解決を目指す人々が交流を深める機会となります。野洲支部からもボランティア通訳として活躍をされる方がいらっしゃいます。

野洲支部 小熊俊夫